グランシップ 子どもアート体験！ 学校プログラム

たくさんの子どもたちに本物の芸術をお届けする、アウトリーチ活動を実施しています。

グランシップ 誰もがWonderfulアート 関連アウトリーチ 「線がおどる、色はひびく、心ひらく」

2026年5月25日（月）
静岡県立御殿場特別支援学校小山分校高等部3年生14名
講師：白井嘉尚（静岡大学名誉教授・美術家）

静岡県文化財団では、県民の皆様が身近な場所で文化芸術を体験できることを目指し、県内各地の学校や文化施設へアーティストと共に出向き、年間を通してワークショップやコンサートを実施しています。今回は、静岡県立御殿場特別支援学校小山分校高等部の3年生がアート作品の制作に取り組んだ様子をレポートします。

グランシップで8～9月にかけて開催した展覧会「グランシップ誰もがWonderfulアート」では、絵本作家・美術家の田島征三さんの作品展と、県内特別支援学校の生徒・児童の作品展を同時開催しました。今回のワークショップでは、展覧会の展示監修を務めた美術家の白井嘉尚さんを講師に迎え、田島征三さんのダイナミックな作風をモチーフに、展覧会会場を彩る合同作品の制作に挑戦しました。

用意されたのは、長さ5mの大きな画用紙2枚。まずは真っ白な紙に生徒が一人ずつ1本の線を描きます。緩やかな曲線やジグザグなど、線に個性やリズムが表れます。さらに複数人でたくさんの線を加え、みるみるうちに真っ白な画用紙はカラフルな線で満たされていきました。

休憩時間、生徒の皆さんは白井さんの解説とともに田島征三さんの作品を鑑賞。力強いタッチからにじみ出る生命力豊かな作品に刺激を受けた後、次は絵の具で色を重ねていきます。それぞれが心のままに色を選び、声を掛け合いながら思いきり筆を走らせているうちに、ついに巨大な共同作品が出来上がりました。完成後には全員でできたばかりの作品を鑑賞し、1本の線から生まれた色彩豊かな大作に達成感を味わいました。個性を持った一人一人が力を合わせることで生まれたカラフルでダイナミックな作品は、展覧会場でも多くの来場者の目を楽しませました。

静岡県文化財団では、これからも皆様が多様な文化芸術に親しむことができるよう、アウトリーチ活動をはじめとする様々な機会をお届けしてまいります。

田島さんの絵を見て、間違いなんてないんだと思って、思い切って好きな色をたくさん塗りました（生徒）

みんなで1本の線から描き始めて、こんなに大きな格好いい絵になるなんてびっくり（生徒）

いつもは表現することが苦手で嫌がる生徒たちが、時間を延長してもらうほど夢中になって作品をつくる姿に感動しました（先生）